

ツールの使用フロー

下準備. 評価したい地域のデータを集め、システムに取り込む (システムの管理者限定)

必要なデータ (GIS データ)
建物構造 (木造、防火木造、S 造、RC 造)、階数、建築年代 の属性データ

Step 1. Web から防災まちづくり支援 Web システムを開く - P18

Step 2. 評価ツールの実行 - P26~42

「編集モード」より、評価項目を決める

これまでの評価結果の閲覧 - P22~25

「閲覧モード」より、選択した範囲の評価結果を閲覧できる

Step 4.

評価したい
項目を選ぶ

① 現状の市街地を評価 - P27~28

市街地防災性能評価ツールを使い、まちの危険性を評価できる
評価を実行するものを選択する「まちの燃えやすさ」「避難の難しさ」

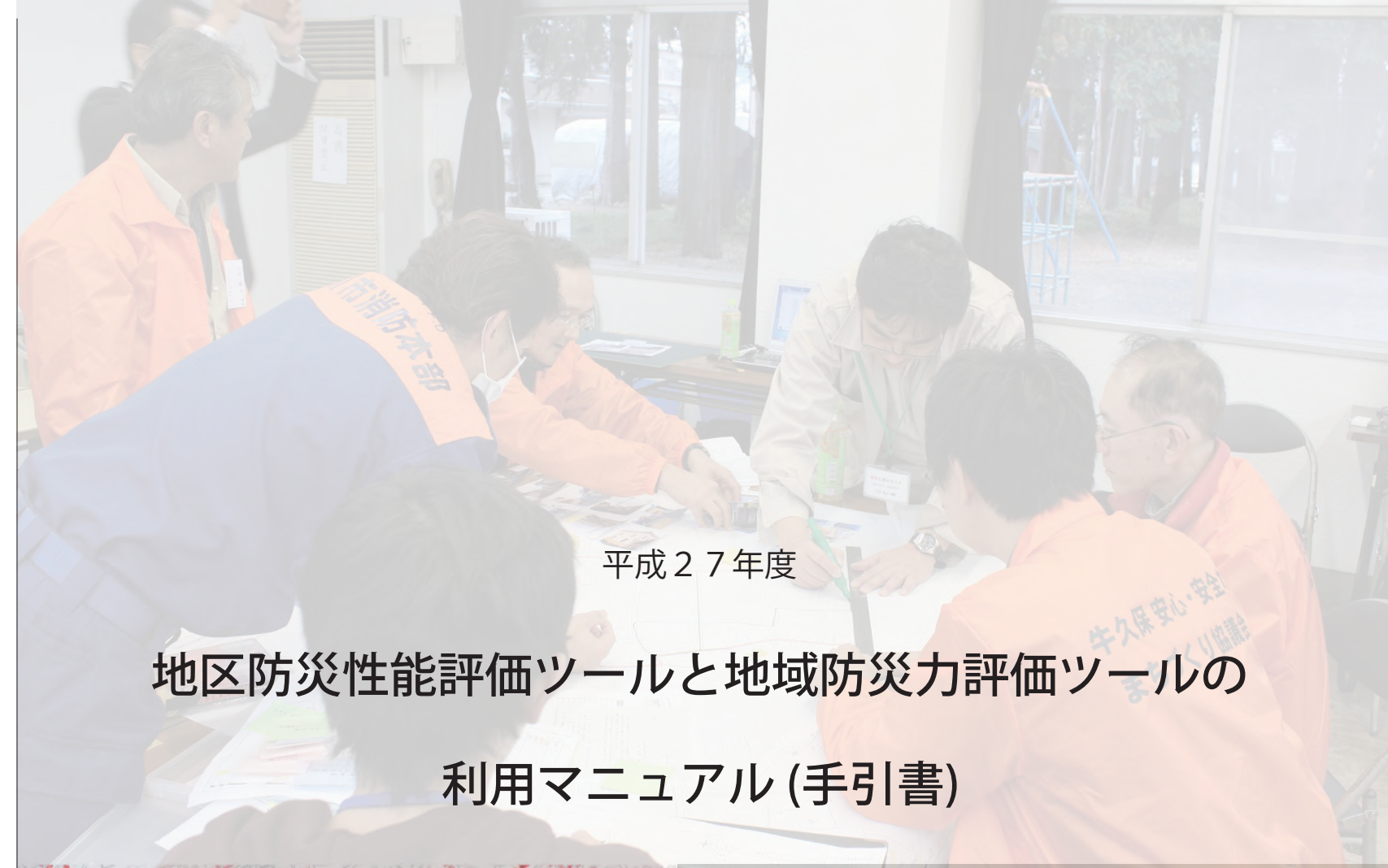
② 市街地整備の効果を評価 - P29~36

建物整備、道路整備、空地整備を組み合わせた市街地整備案を入力し、その
整備の効果がどのくらいあるか評価できる

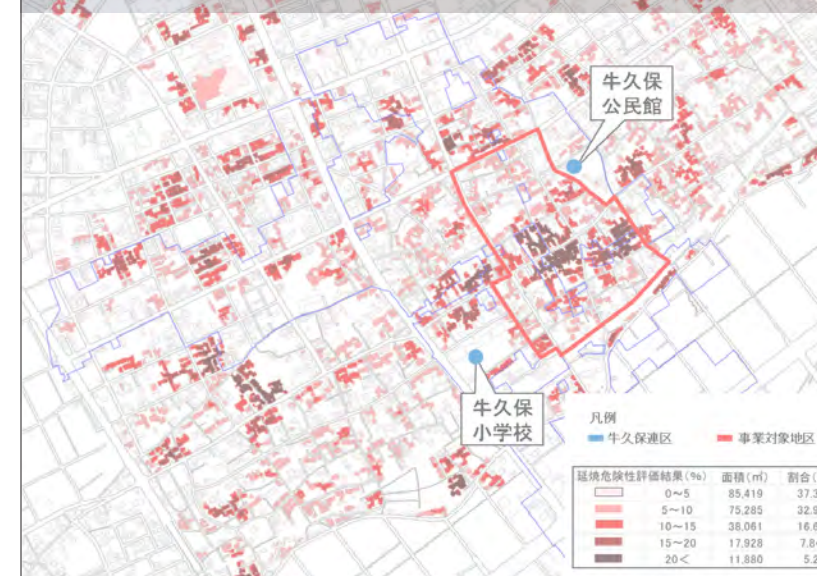
③ 地域防災力を評価 - P37~42

地域防災力評価ツールを使い、設問に答えることでまちの防災力を評価できる

各ツールの使い方については、本編で詳しく説明します。



地区防災性能評価ツールと地域防災力評価ツールの 利用マニュアル(手引書)



豊橋技術科学大学 都市地域計画研究室

地区防災性能評価ツール・地域防災力評価ツールとは？ …

地域コミュニティレベルでの事前防災の取り組みを支援するツールです。

インターネット環境さえあれば、いつでも、どこでも、だれでも、利用可能です。



ツールを使うのはこんな時 …

- まちの危険な場所をしっかりと理解したい。地域の防災の力を知りたい。
- 自分たちで考えた防災まちづくりの取組みが、本当に効果があるのか知りたい。
- 災害に備えてまちの整備をしたいけど、効果的な整備がわからない。
- みんなで話し合いをするときにっと有意義な意見交換をしたい。



このようなご要望にお答えします。

防災まちづくり支援WebGISシステムを構成するツール

・延焼シミュレーションツール

→ ある地点から出火した場合の燃え広がり方を評価できる



延焼危険性評価ツール

・延焼危険性評価ツール

→ 地域全体の燃えやすさを評価できる

・災害時行動困難性評価ツール

→ 各建物から避難地までの避難の難しさを評価できる



災害時行動困難性評価ツール

・市街地仮想整備ツール

→ 建物整備、道路整備、空地整備を組み合わせた市街地整備案を検討できる

・地域防災力評価ツール

→ コミュニティ単位の地域防災力を評価する
(防災活動に関わる33の質問に答えてもらう)

活用事例

活用事例

① 行政による利用：自治会等の防災活動の支援情報として

- 1) 支援の必要性が高い地域や支援の内容を判断する材料になる
- 2) 防災取組の必要性を説明する重要な客観情報になる
- 3) 取組実績を本ツールで管理することで、市全域の地域防災力の把握に役立つ

② 地域での自主的な防災取組をサポート

- 1) 自分の住む地域の防災力はどうのくらいか、隣の自治会と比べるとどうかわかる
- 2) 自分の自治会はどこが弱点か、どこが強みか、今後の課題はなにかがわかる
- 3) 1年後にもう一度チェックをして、どの程度改善したか、何が不足しているかわかる

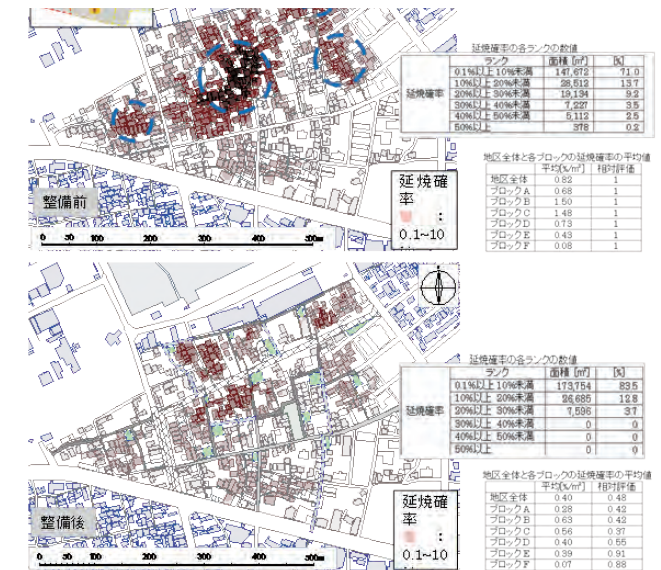


① 市街地整備案の効果を説明する際の支援情報として

地元住民との協議を重ね、策定された市街地整備案

↓ ツールに入力

どこがどの程度、地震災害に対する危険性が改善するか、理解・共有できる



② 行政と住民が協働して整備方針を検討するWSで使う資料として

WSで検討された整備案をその場で評価し、その結果を表示できる

↓

- ・様々な素案の検討・比較が可能
- ・議論の活性化、合意促進に貢献



③ 住民が主体的にまちの現状把握を行うための資料として

評価結果から、まちの地震災害に対して危険な場所を理解・共有できる
住民が主体的に事前の防災取組を検討する際の資料として役立つ



評価結果の確認画面